

豊かな自然と地域産業を次世代へ



やまがた
山県市長(岐阜県)

はやし
林

ひろまさ
宏優

青天の霹靂

山県市の面積は約222km²、公共交通により岐阜市へ約30分、名古屋市へも1時間足らずの地勢にあります。しかし、市の名称が示すとおり、面積の約84%は森林で、人口は約2万6000人の小規模な自治体です。

平成15年4月の新市発足以来、旧高富町長が市長を務めていました。平成22年秋、市長から「次を君に託したい」との打診が

ありました。当時、市の総務部長を務めていましたが、旧高富町に奉職以来「首長になる」とは考えたこともなく、まさに「青天の霹靂」の思いでした。

私の知名度は十分浸透していなかったため、平成23年春の統一地方選に向け、平成22年12月に職員を退職し、私が考える「まちづくりビジョン」を多くの方々々に説明すると同時に、公人でない立場からさまざまな意見を聞いて歩きました。その途中、東日本大震災が起き、今でいう「VUCA (ブーカ)」状態となつて、市民の方々の意識の変化も目の当たりにしました。こうした活動の中で、市長の職務の一つは「多様な考えの中での利害調整にある」と感じ、私の政治理念は「対話と共感」としています。

人生観広げるサイクリング

市長になると、連日、夜の食事会にお招きもいただきます。さまざまな方との対話はとても有意義ですが、連日の豪華なディナー(?)は、私をメタボの世界へ誘ってくれます。職員時代から始めていた「百名山登頂」は効果的でしたが、市長となると公務との調整が難しくなってきました。

そこで始めたのが「ぶらっとサイクリング」です。ウォーキングも良いですが、サイクリングの速度で風に触れ

ることの爽快感は最高です。最初は、近隣のサイクリングが中心でした。日本一ともいわれる市内の円原川えんげがわの伏流水と清流は秀逸で、関西地方からも多くの方が写真撮影や水くみに訪れます。普段車で通っているところでも、サイクリングで通ると新たな発見もあります。

しかし、近隣の場合は「あちらこちら」から声を掛けられます。それは、ありがたい、うれしいのですが、サイクリングの魅力は低減しますので、最近では遠方でのサイクリングが多くなっています。始発の電車に乗って、折りたたみ自転車をバッグに入れて電車を出掛けます。サイクリストの聖地ともいわれる「しまなみ海道」などは圧巻でした。瀬戸内海の川のように流れる潮の速さとその雄大さには改めて感銘を受けました。日本海沿岸、瀬戸内海の数々の島一周や富士山裾野のサイクリングでは、展望の利く場所からの光景が、二度と目にするにはできないかもしれないと思いつながら感慨深く眺めています。港町だと漁港でのおいしい食事をたしなむと共に、海に面しない岐阜に住む私にとって、海岸沿いに住む方々との会話も新鮮に楽しめています。

隣接県へは、マウンテンバイクを車に積んで出掛けます。戦国三英傑が生まれ育った濃尾平野周辺には、多くの城跡があります。犬山城、小牧城、彦根城や丸岡城など、そのまち並みや石垣・水路の散策、歴史資



円原川の光芒



絶景！富士山周辺をサイクリングする筆者

料館などへの訪問は、時空を超えてさまざま課題を鳥瞰ちようかんさせてくれます。木曾川や長良川の堤防サイクリングも爽快で、琵琶湖や諏訪湖周辺の平たん地は軽いサイクリングに適しており、湖周辺には美術館なども多くあります。

逆に、活気ある四日市市の化学コンビナートや愛知県飛島村のコンテナ埠頭ふとう、都市計画に基づいて道路整備されながらも、

精悍せいかんを欠くまち並みや商店街などをサイクリングすると、考えさせられるところもあります。

自然と共生するまちづくり

本市は県内21市の中で唯一鉄道の駅がなく、公共交通の主流は乗り合いバスです。そんな中、令和2年3月に東海環状自動車道の「山県インターチェンジ」が開通したのを機に、インター近くに駅前機能を持つようなバスターミナルの拠点を造りました。隣接地にはJ・Aが農産物直売や飲食を提供する「山県ばすけっと」をオープンしてくれました。

平日・休日を問わず、連日にぎわいを創出し、新鮮野菜はすぐに売り切れますので、課題は農作物の仕入れです。私の野菜栽培は、健康維持と気分転換には役立っています。出荷できる規模ではありません。ちなみに、野菜は、愛情を持って手を掛ければ掛けるほどおいしい野菜ができませんが、収穫時には野生の猿との奪い合いになります。

実が大きく、甘みもしっかりとし、深煎りコーヒー豆のような濃い色をし、栄養のある渋皮まで食べられる「利平栗りへいくり」。「幻の栗」「栗の王様」とも言われますが、本市はその発祥の地であり、旬の時期にはにぎわいが倍増します。

山県の地に早矢仕有はやしゆうき的や大野伴睦おのばんぼくが生誕



にぎわい創出の拠点！山県ばすけっと&山県バスターミナル

しました。明智光秀の生誕・没地であるとの説もあります。また、「水栓バルブ発祥の地」として、水栓バルブ関連企業が100社以上のクラスターを成しています。私は、こうした先人たちが築いてきた産業を育成するとともに、自然災害を防ぎながら、おいしい水を生み出し、心の潤いを与えてくれる自然の恵みを守り、次世代へ引き継いでいかなければならないと考えています。

本年春には、地元特産品を生かした飲食物が新たに開発される予定です。今年には新市発足後20年目。第九「歓喜の歌」を歌って、これを飲食できる日が楽しみです。